

Chemical Bonds 支部／教育・普及部門だより

近畿支部発

第 105 春季年会小学生向け実験教室 — 目指せ未来の科学者 —

2025 年の春季年会は関西大学の千里山キャンパスで開催されました。これまで、関西地区で春季年会が行われると、日本化学会近畿支部の化学教育協議会が主体となって小学生向けの実験教室を実施しています。今回は、新型コロナウイルスの流行に伴い中止となつたので、6 年ぶりの開催となりました。今回の実験教室は化学教育協議会メンバーにとって、待ちに待った企画となりました。

我々が子供たちに指導した実験は、次の 8 つのテーマです。

(1) シャボン玉を浮かべてみよう、(2) 水の上を走る紙、(3) うがい薬の色が消えた、(4) カラフル炎！(固形燃料をつくろう)、(5) 水の電気分解、(6) 冷却パックをつくろう、(7) おもしろい立体シャボン膜、(8) ネームプレートをつくろう

いずれの実験も子供たちの興味を引き付ける内容であり、低学年と高学年の児童をうまく振り分けることで、決められた時間 (60 分) 内に上記の 2 つの実験テーマを無事終了することができました。実験をしている子供たちを見ていると、みんな目を輝かせ楽しそうに実験をしている姿が印象的でした。今回の実験教室は春季年会の最終日でありましたが、各回 30 名 (計 90 名) の参加がありました。

最後に、参加した多くの子供たちが、将来、立派な科学者となって日本化学会で発表することを楽しみにしています。

(木村憲喜 和歌山大学大学院教育学研究科 教授)



関東支部発

第 42 回化学クラブ研究発表会

2025 年 3 月 25 日 (火)、芝浦工業大学豊洲キャンパスにて「第 42 回化学クラブ研究発表会」が開催されました。前日に東京で桜開花宣言もあり、天候にも恵まれました。発表会では、21 件の口頭発表、33 件のポスター発表、そして東海地区代表として静岡県立清水東高校のエキシビジョン発表が行われました。この化学クラブ研究発表会は、日本化学会の関東支部主催で、関東地区の中学および高校の化学や理科クラブなどがその研究成果を発表する場となっています。何代にもわたって続くテーマもあり、発表者たちは深い考察を基に、さらに進んだ研究成果を発表していました。特に、動画を活用した発表が増えており、よりわかりやすくなっている点が印象的でした。発表内容は多岐にわたり、例えば、電池に関する研究、身近な野菜や食品を利用した研究、カメラを使った装置開発、樹脂やゲルの作製、洗剤の化学などがありました。どの発表も、仮説を

基に基礎や基本を丁寧に積み上げ、現象の理由を深く理解しようという姿勢が伝わってきました。

ポスター発表は 90 分間行われ、コメンテーターとして参加している大学・企業の研究者、クラブ顧問の先生、そして高校生や中学生同士が活発に意見交換をしているのが印象的でした。会場には参加の大学生もあり、世代や立場を超えて化学の楽しさを共有できる貴重な時間となりました。最後に、支部長である金原 数先生 (東京科学大学) から「金賞」「銀賞」「銅賞」の受賞校に賞状が手渡され、会場は大きな拍手に包まれて閉会となりました。来年もぜひ参加したい、そんな中高生の熱意を感じさせる素晴らしい発表会でした。

(新倉謙一 日本工業大学環境生命化学科 教授)

